

令和3年3月25日
令和2年度岡山市歯と口腔の
健康づくり推進協議会
【資料2】

今後の対策

中間評価

今後の取組の方向性

1. 口腔機能の維持・向上に関する取組
2. 歯周病対策
3. 障害者（児）、要介護者が歯科治療・指導を受けられる環境の整備

1. 口腔機能の維持・向上に関する取組

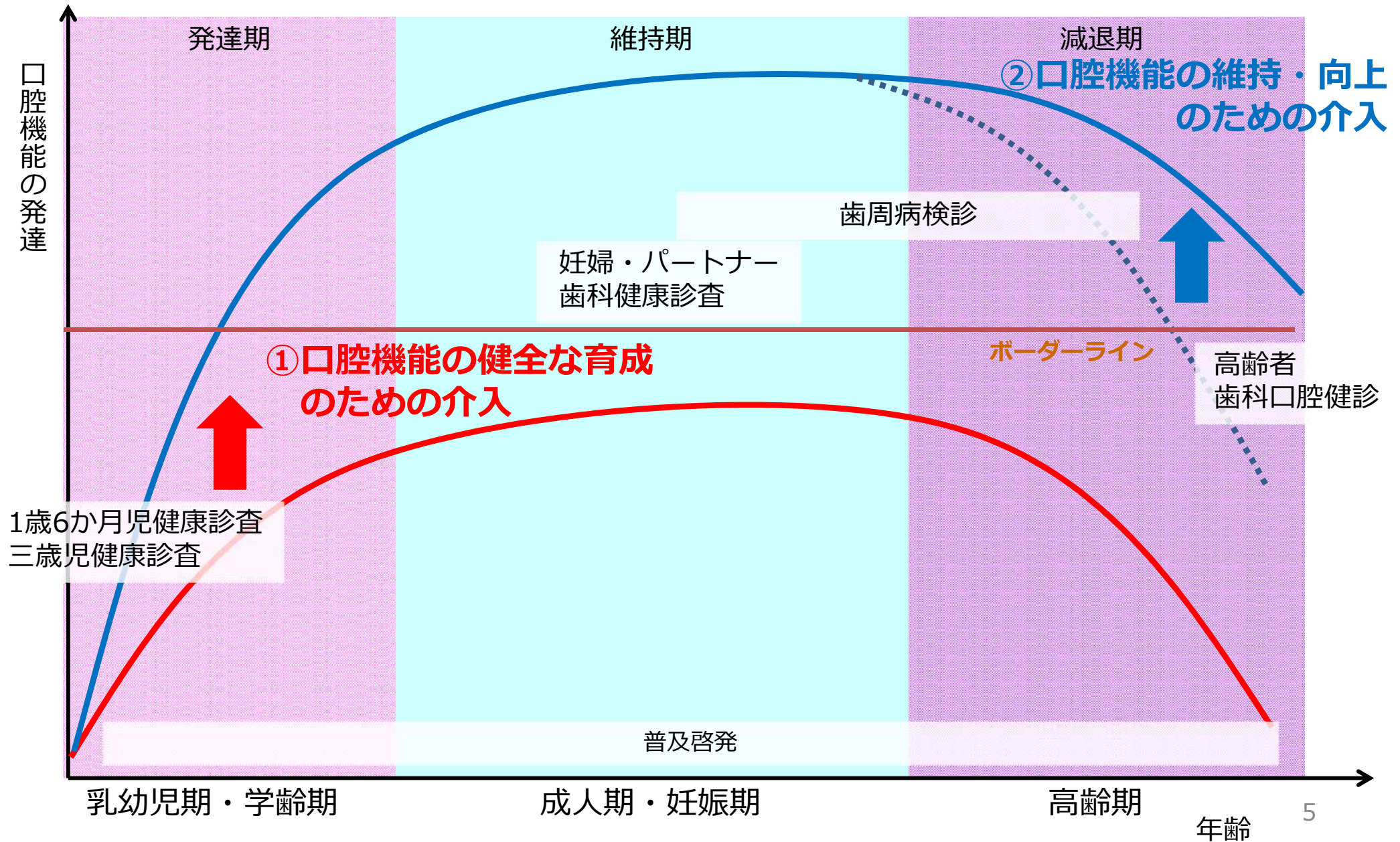
口腔機能の維持・向上に関する取組に関する目標項目

目標項目	計画策定時 (平成23年度)	中間評価時 (平成29年度)	評価	目標 (令和4年度)
中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加	97.0%	96.8% (平成28年度)	悪化	増加
「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育所・幼稚園 4.3% 学校 16.2% 事業所等 0%	保育所・幼稚園等 13.9% 学校 36.4% 事業所等 0%	改善	50%
60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加 (65~69歳 基本チェックリスト3項目のいずれにも該当しない人)	68.3% (平成22年度)	54.1% (平成28年度)	悪化	80%
摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加	50件 (平成25年 10月現在)	45件 (平成29年 10月現在)	悪化	増加

基本チェックリスト3項目

- 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
- お茶や汁物等でむせることがありますか
- 口の渇きが気になりますか

口腔機能の変化のイメージ図と 歯科保健事業



①口腔機能の健全な育成

口腔機能に関する保健指導は、1歳6か月児健康診査や三歳児健康診査で行っている。
口腔機能の健全な育成に必要な注意点等をリーフレットにまとめ、令和3年度から1歳6か月児健康診査で配布する予定である。

<表面>

歯と口の働きを育てましょう！

口の機能（食べる、話す）は、発達に合わせた食事の大きさと固さ、食べ方によって身につけていきます。この機会に、普段の生活を振り返りましょう。

☆唇を閉じる力をつけましょう☆

おっぱいや哺乳びんでの飲み込みは、唇を閉じていません。唇を閉じると、食べ物や飲み物が気道に流れ込むのを防ぎ、安全に飲み込みができるようになります。また、鼻の呼吸にかわり、感染予防になっています。
*唇を閉じる力が弱いと歯並びに影響することがあります。



山型の唇

前歯でかじり取り
口全体を使って食べる



唇のまわりの力がついて口唇が閉じている

☆柔らかくても大きめのものをかじり取って食べさせてあげましょう

手で持って前歯でかじり取ることで、一口量がわかるようになるとともに、口全体を使って食べることができます。初めのうちは詰め込んだり、こぼすこともあります。少しずつ上手に食べられるようになります。
*喉に詰まらないように安全に配慮して、見守ってください。



口の働きを育てるポイント

- 手についたものを舌を使ってとる
- 小さく切りすぎない

普段の生活でもやってみましょう！



水面を上唇をあてながら
コップで飲む



口全体を使って
ぶくぶくうがい



唇をすぼめて
吹く遊び

<裏面>

むし歯を予防しましょう！

プラーク（細菌の塊）が食べ物に含まれる糖분을分解して酸を作り、その酸が歯を溶かします。唾液の働きによって、溶けた歯の表面は元に戻りますが、ただただ飲食していると溶ける時間が元に戻る時間より長くなりむし歯ができてしまいます。

◆おやつは時間を決めて食べましょう◆

おやつは食事を補うものと考え、3回の食事に影響しないようにしましょう。おかずの残りや果物などを中心にするなど、工夫するとよいでしょう。

◆1歳のころからフッ素を利用しましょう◆

次の健診は、約2年後の三歳児健診になります。3歳頃には乳歯が生えそろうので、今からかかりつけ歯科医をつくり、定期検診とともにフッ素塗布をしてもらいましょう。

予防効果20～30%



フッ素入り歯磨き剤
(おうちで)

予防効果30～40%



フッ素塗布
(歯科医院で)

予防効果50～80%



4歳頃～フッ素洗口
(おうちや園、学校で)

できているかチェックしましょう！

- 唇は普段から閉じている
- 柔らかくても大きめのものを前歯でかじって食べている
- おやつは時間を決めて食べている

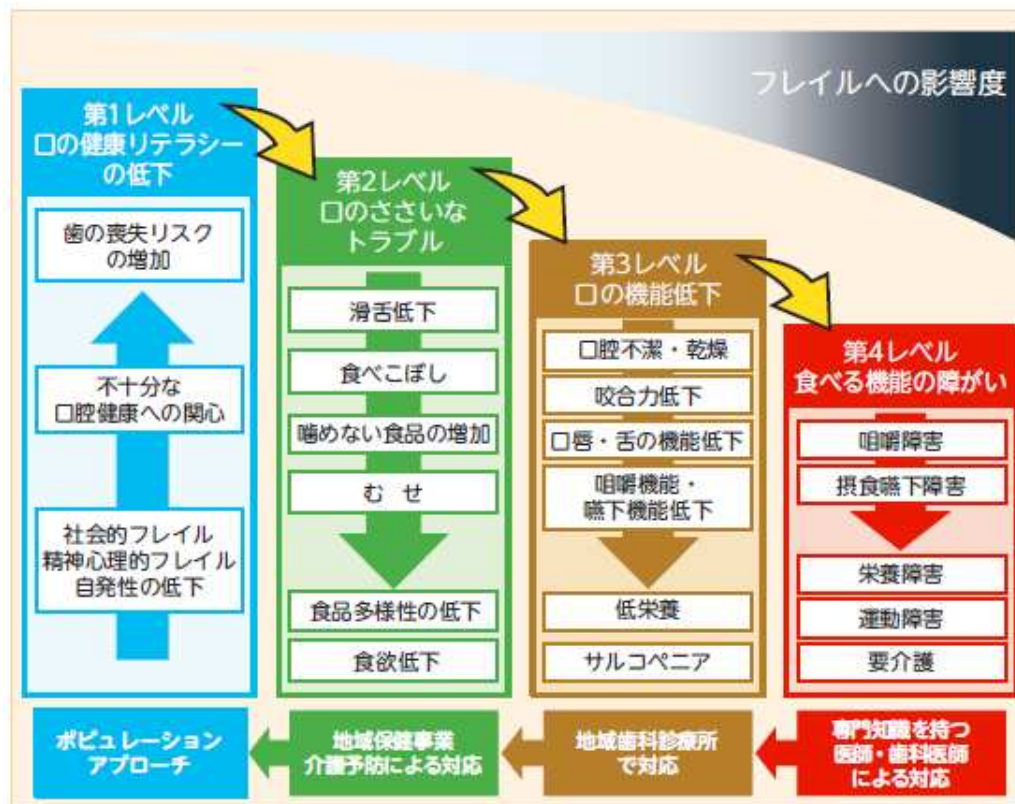
保護者の方へ

岡山市では、妊婦・パートナー歯科健康診査、歯周病検診、高齢者歯科口腔健診を実施しています。
検診をきっかけに、ご自身のお口の健康を振り返りましょう。

②口腔機能の維持・向上

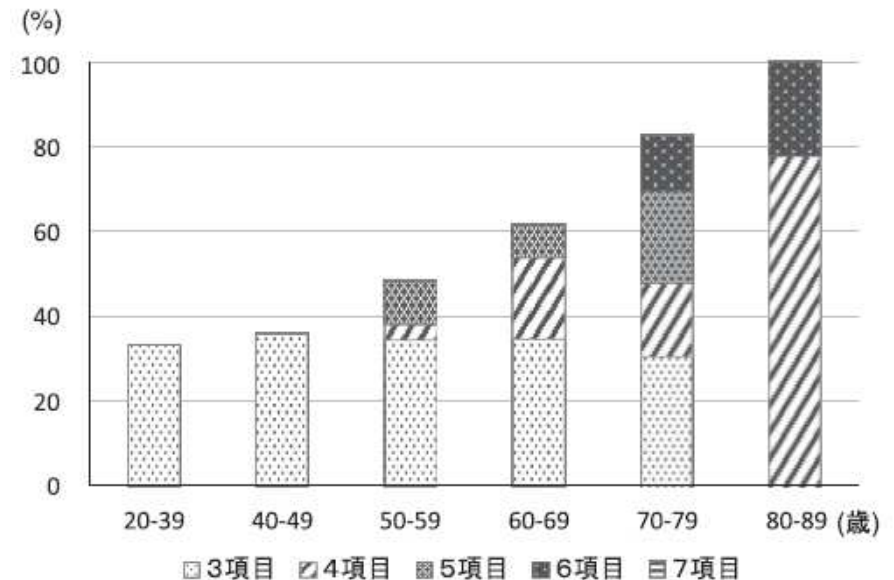
オーラルフレイルとは、口に関する“ささいな衰え”が軽視されないように、口の機能低下、食べる機能の障害、さらには、心身の機能低下までつながる“負の連鎖”に警鐘を鳴らした概念である。

口の機能の低下は、60歳以上では半数以上に認められるため、若い頃からの対策が大切である。



オーラルフレイル概念図
2019年版

口腔機能低下症の年代別の割合
(口腔不潔、口腔乾燥、咬合力、舌口唇運動低下、舌圧、咀嚼機能、嚥下機能のうち該当する項目数)



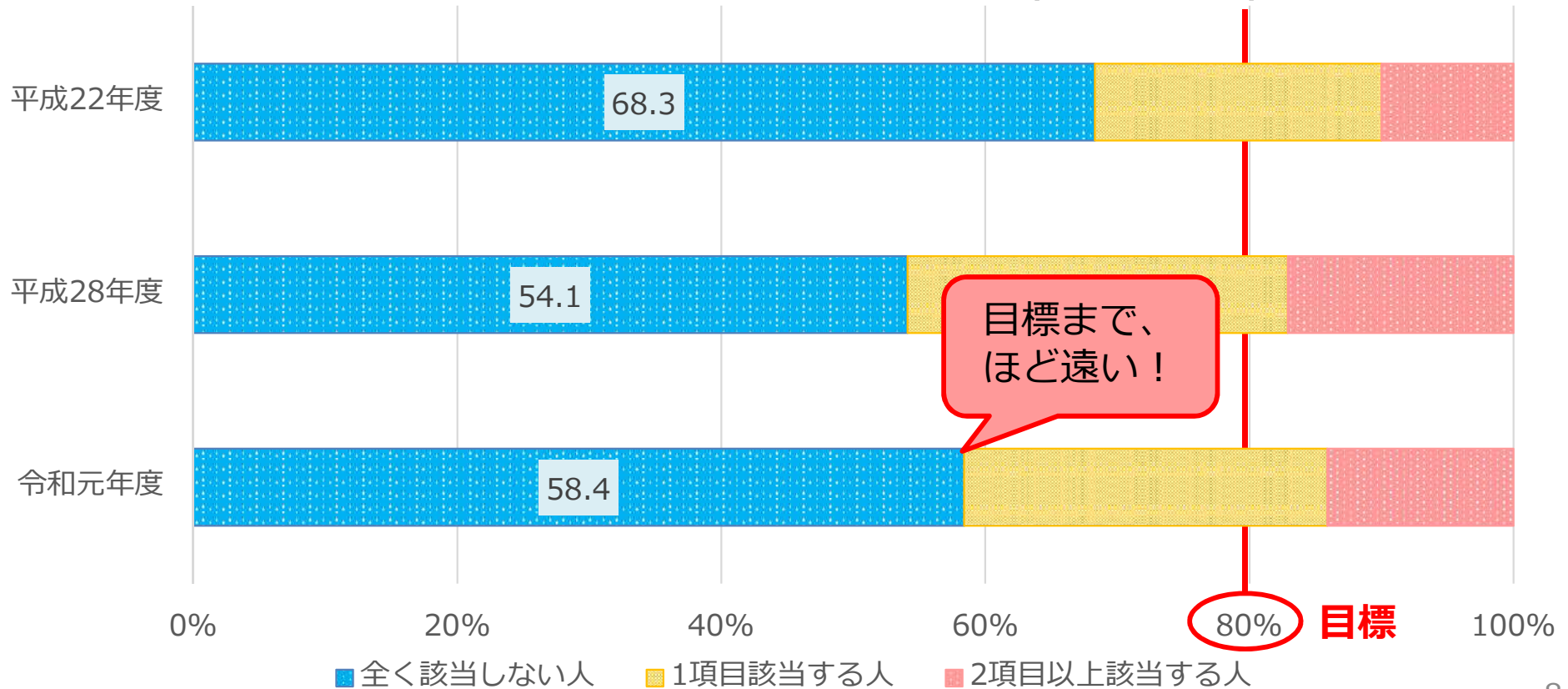
太田ら, 老年歯学33 (79-84), 2018
より引用 7

60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合

口腔機能の低下が認められない人の割合は、あまり改善していない。

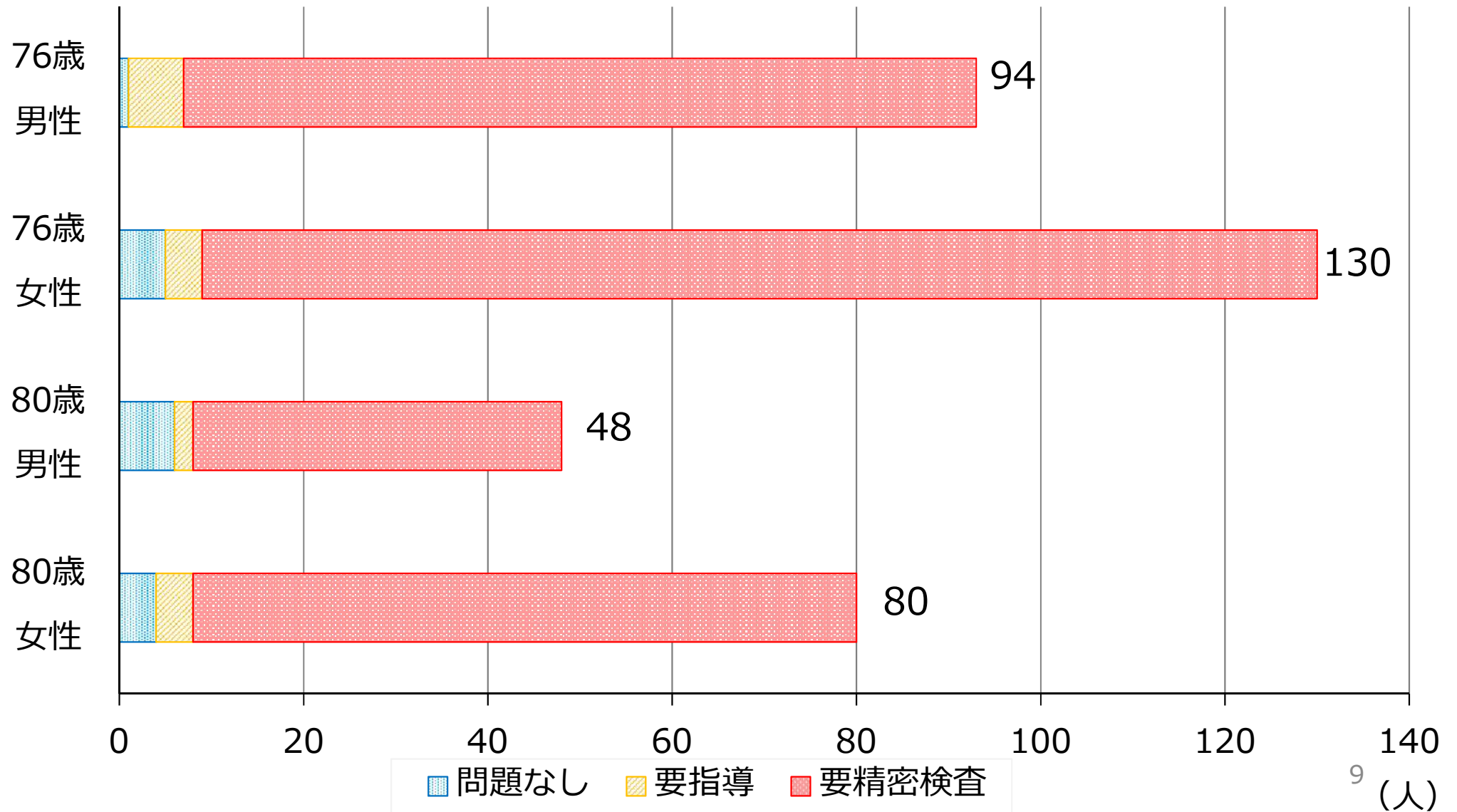
- 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
- お茶や汁物等でむせることがありますか
- 口の渇きが気になりますか

基本チェックリスト3項目の該当者（65～69歳）



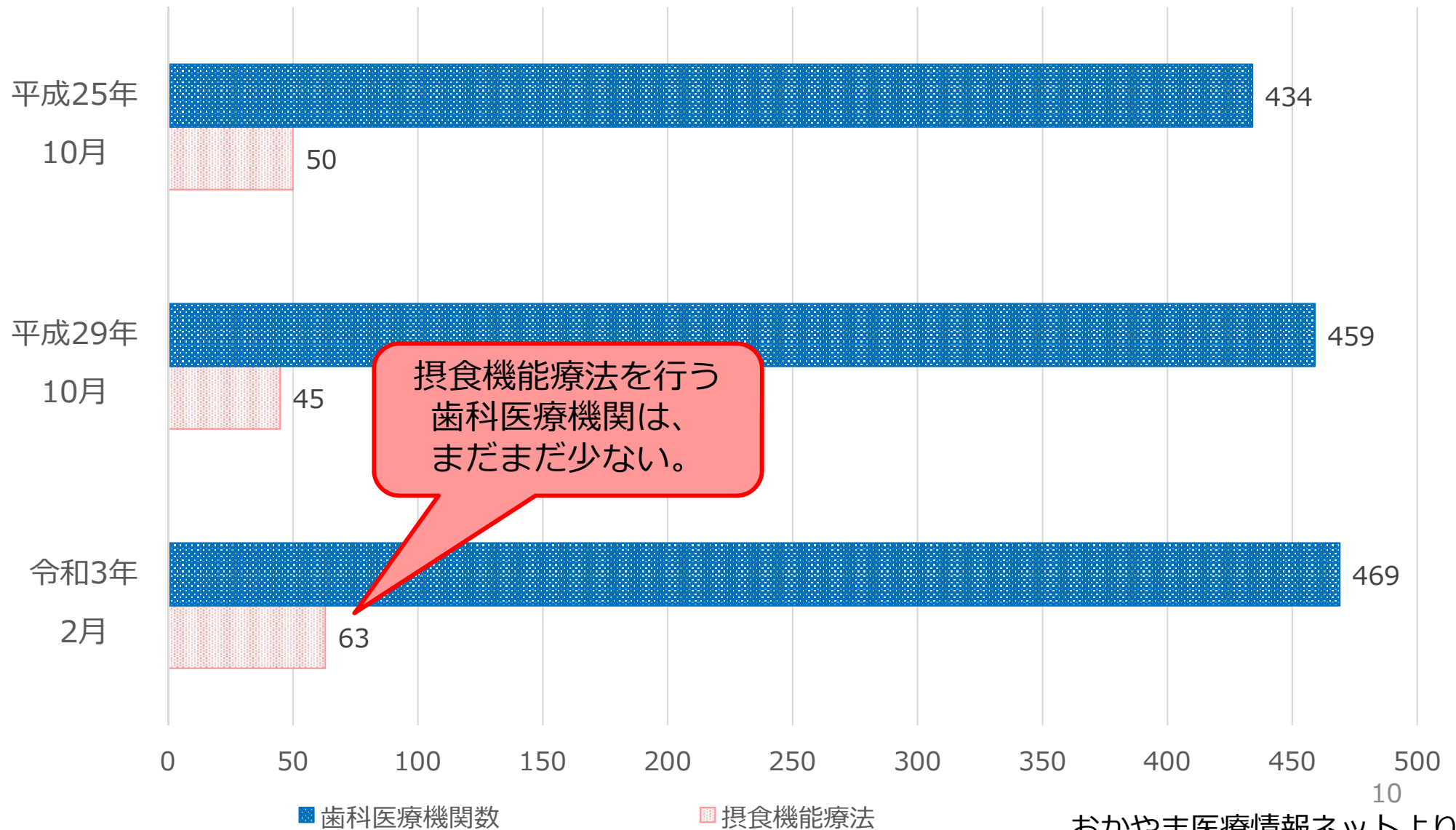
岡山市 高齢者歯科口腔健診 受診結果（令和2年度）

受診者のほとんどがオーラルディアドコキネシス（滑舌の検査）と歯周病で、要精密検査となっている。
滑舌等は、訓練で改善が可能である。健診受診後、継続的に訓練ができる環境が必要である。



岡山市内で摂食機能療法を行う歯科医療機関数

口腔機能の維持・向上に必要な指導を行う歯科医療機関を探す一助となるのが、摂食機能療法を行っているか否かであるが、岡山市内で、摂食機能療法を行っているのは、わずか63か所である。



滑舌の検査の例

パ、タ、カをそれぞれ10秒間に言える回数を測定し、1秒間あたりの回数に換算する。
いずれも6回/秒以上で正常とする。

→ トレーニングするには、数値が目に見えるものが有効

くちけんアプリ



健口くんハンディ



今後の対策

- 普及啓発

フレイル対策と連携しつつ、口腔機能の健全な育成、維持・向上対策を行う。

<市民向け>

- ・ 幼児健康診査や妊婦・パートナー歯科健康診査受診者へ口腔機能に関する指導を行う。
- ・ 各保健センターで、前期高齢者の多い地区等を対象として、健康教育を行う。
- ・ 口腔機能の維持・向上に有効な訓練や体操を日常的に行えるよう、機器やアプリを紹介する。

<専門職向け>

- ・ 歯科医師・歯科衛生士への口腔機能管理に関する研修を行う。

<介護施設職員向け>

- ・ 施設職員への口腔機能の維持・向上に関する研修を行う。

- 口腔機能の低下を予防する対策

- ・ 口腔機能の低下に気づくことのできる健診を若い年代から実施する。

- 口腔機能が低下した人への維持・向上対策

- ・ 口腔機能健診後に、介護予防教室やあっ晴れ！もも太郎体操との連携により、継続的に効果的なお口の体操ができる環境を整備する。

2. 歯周病対策

歯周病対策に関する目標項目

目標項目	計画策定時 (平成23年度)	中間評価時 (平成29年度)	評価	目標 (令和4年度)
中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少 (G、GOの合計)	20.3%	21.1%	悪化	減少
過去1年間に歯科検診を受診した人の増加	29.5%	45.1%	改善	65%
成人の喫煙率の低下 (喫煙をやめたい人がやめる)	18.1%	14.7%	改善	8%
40歳で喪失歯のない人の増加 (35~44歳)	72.7%	78.0%	改善	80%
歯周病を有する人の割合の減少 (40歳代における進行した歯周炎を有する人の減少(40、45歳))	48.1% (平成21~23年度)	51.1% (平成26~28年度)	悪化	25%
60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加 (55~64歳)	64.6%	76.9%	達成	70%→80%
職場で歯科検診を行っている事業所の増加	1.3%	3.2%	改善	15%

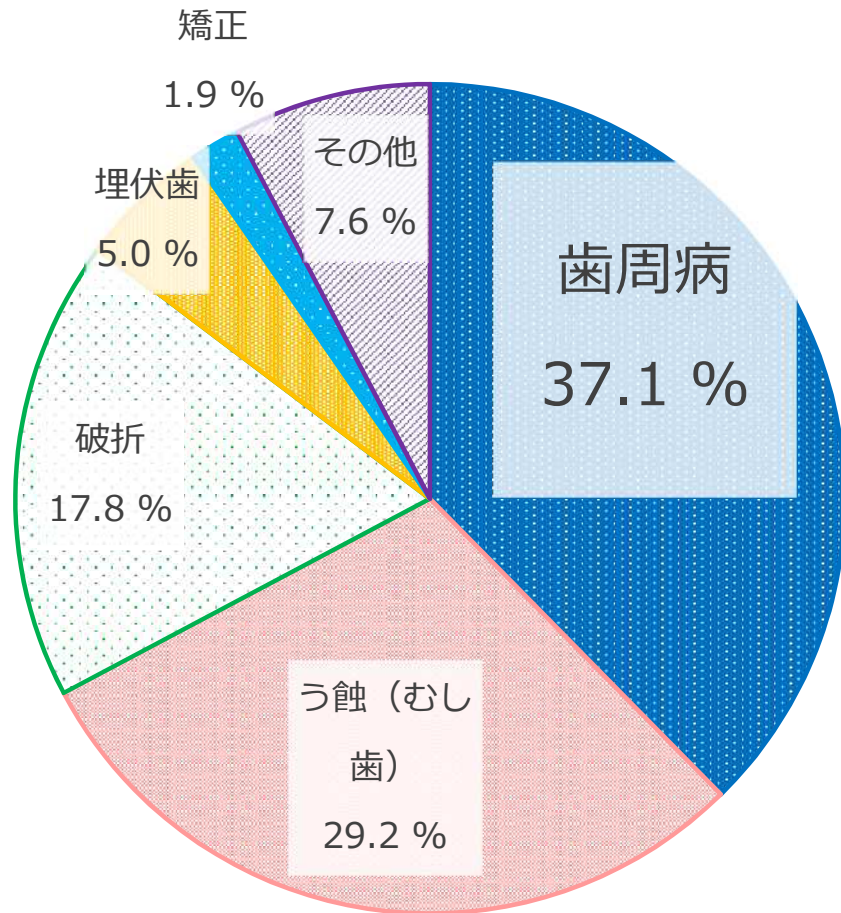
歯周病対策

永久歯を抜歯する原因の約4割が歯周病である。

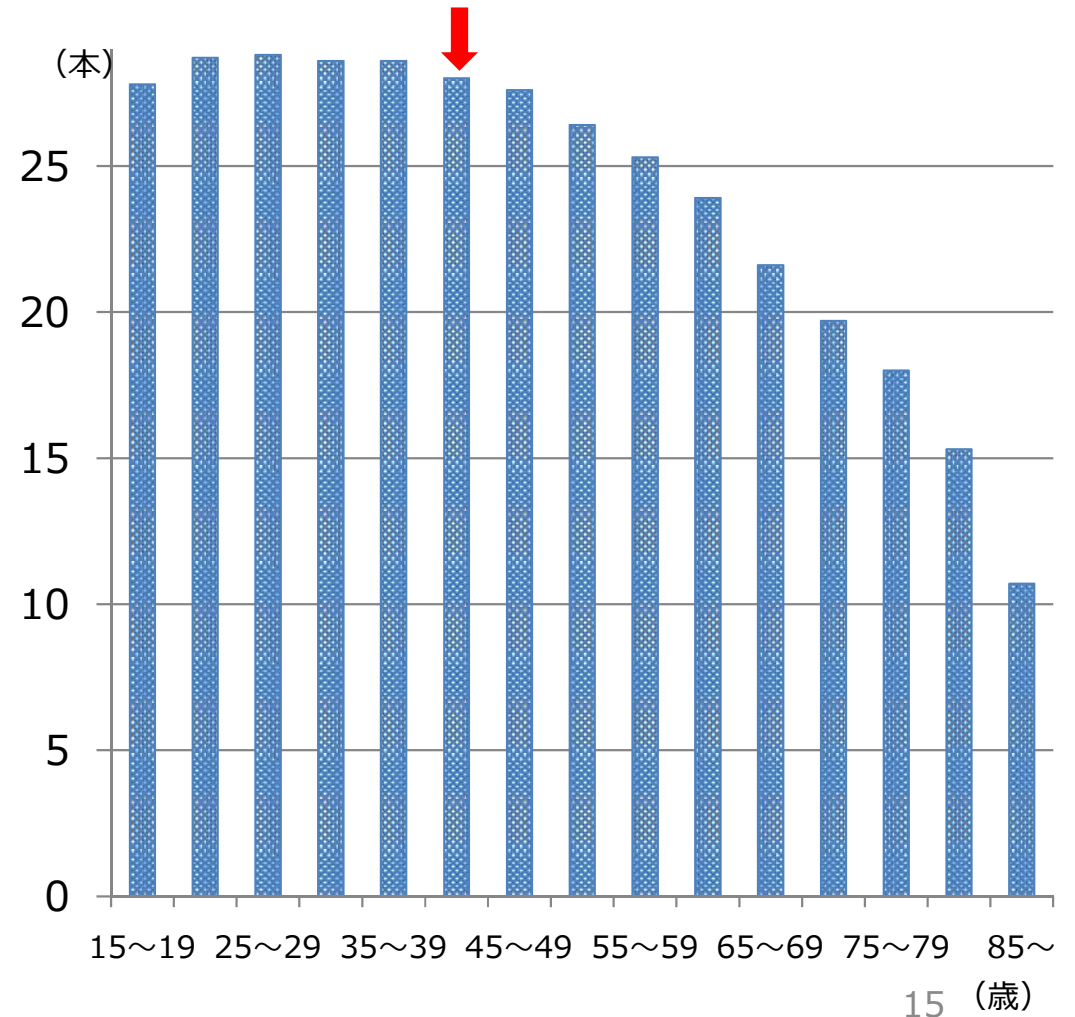
永久歯は、40歳頃から減少する。

→ 歯周病対策は、40歳までに行うことが重要である。

永久歯の抜歯の原因調査

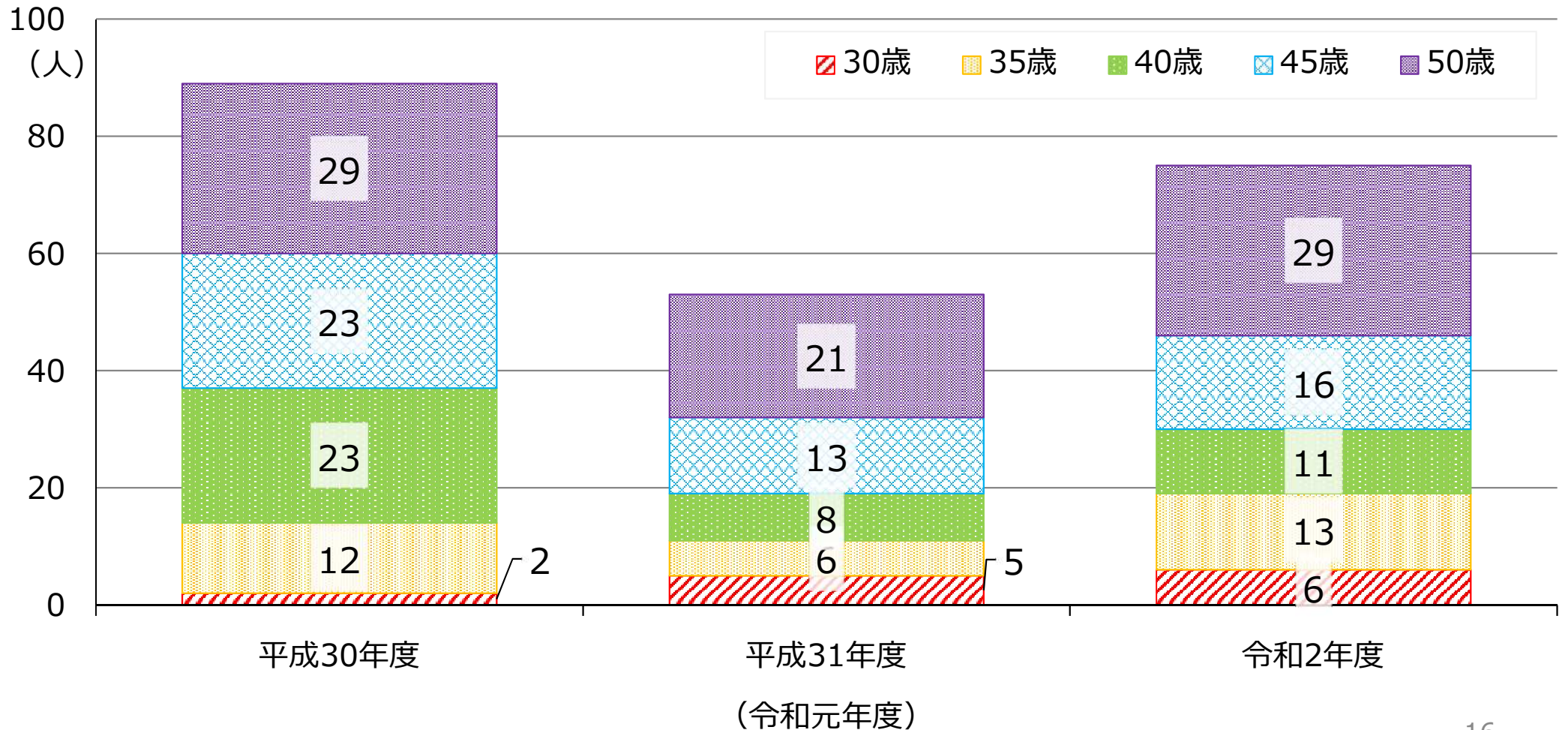


現在歯数の変化



岡山市 歯周病検診 受診者数の推移

50歳以下の歯周病検診受診者は少ないが、健康市民おかやま21（第2次）中間評価アンケート（平成29年）では、30～50歳代で、「年1回以上、歯科検診を受けている」と回答した人は44.1%、「年1回以上、歯石除去を受けている」と回答した人は40.7%、「年1回以上、歯磨きの指導を受けている」と回答した人は25.3%である。



歯周病のセルフチェックの一例

歯科受診のきっかけづくりとして、セルフチェックを普及する。

歯周病セルフチェック
あなたは大丈夫? 社会の歯周病対策

歯周病は歯を失う大きな原因であり、さまざまな体の病気とも深い関係があります。次のようなチェックで早めに気づけて対策しましょう。

歯周病セルフチェック 次の項目の答ではまるものに、チェックしてみてください。

- 歯ぐきに赤く腫れた部分がある。
- 口臭がなんとなく臭くなる。
- 歯ぐきがやせてきたみたい。
- 歯と歯の間にものがつきやすい。
- 歯をみがいたあと、歯ブラシに血がついたり、すすいだ水に血が混じることがある。
- 歯と歯の間の歯ぐきが、斜角的な三角形ではなく、うっすらと広がっている。
- とくどき、歯が浮いたような感じがする。
- 指でさわってみて、少しぐらつく歯がある。
- 歯ぐきから膿が出たことがある。

《判定》

チェックがない項目
 これからもきちんと歯みがきをして、少なくとも1回1回は歯科検診を受けましょう。

チェックが1〜2個の項目
 歯周病の可能性があります。まず、歯みがきのしかたを再確認しましょう。歯のため、かかりつづける検診で、歯周病でないかどうか、歯みがきがちゃんとできているか、確認してもらった方がいいでしょう。

チェックが3〜4個以上の項目
 初期の歯周病かそれ以上の歯周病が進行しているの可能性があります。早めに歯科検診を受けましょう。

歯周病は静かに進む

①初期 歯肉炎
 歯ぐきが赤く腫れる

②中期 軽度歯周炎
 歯と歯ぐきの間に歯垢がたまり、歯ぐきが腫れる

③中期 中等度歯周炎
 歯肉が歯ぐきの奥まで伸び、歯ぐきが腫れる

④末期 重度歯周炎
 歯肉が歯ぐきの奥まで伸び、歯ぐきが腫れる。歯が揺れる

公益財団法人 8020 推進財団
<http://www.8020taisan.or.jp/>

今後の対策

- 普及啓発

- ・ 幼児健診や妊婦・パートナー歯科健康診査の受診者へ歯周病の啓発を行う。
- ・ 保健センターごとに、歯周病予防の健康教育を行う。
- ・ 学校保健安全委員会に出席して、PTA向けの健康教育を行う。
- ・ 関係課と連携し、健診の案内を行う。
例) 特定健診の案内と一緒に、セルフチェックを紹介し、歯周病検診を案内する。
国保無料クーポンの未使用者向けに受診勧奨を行う。

- 医科歯科連携

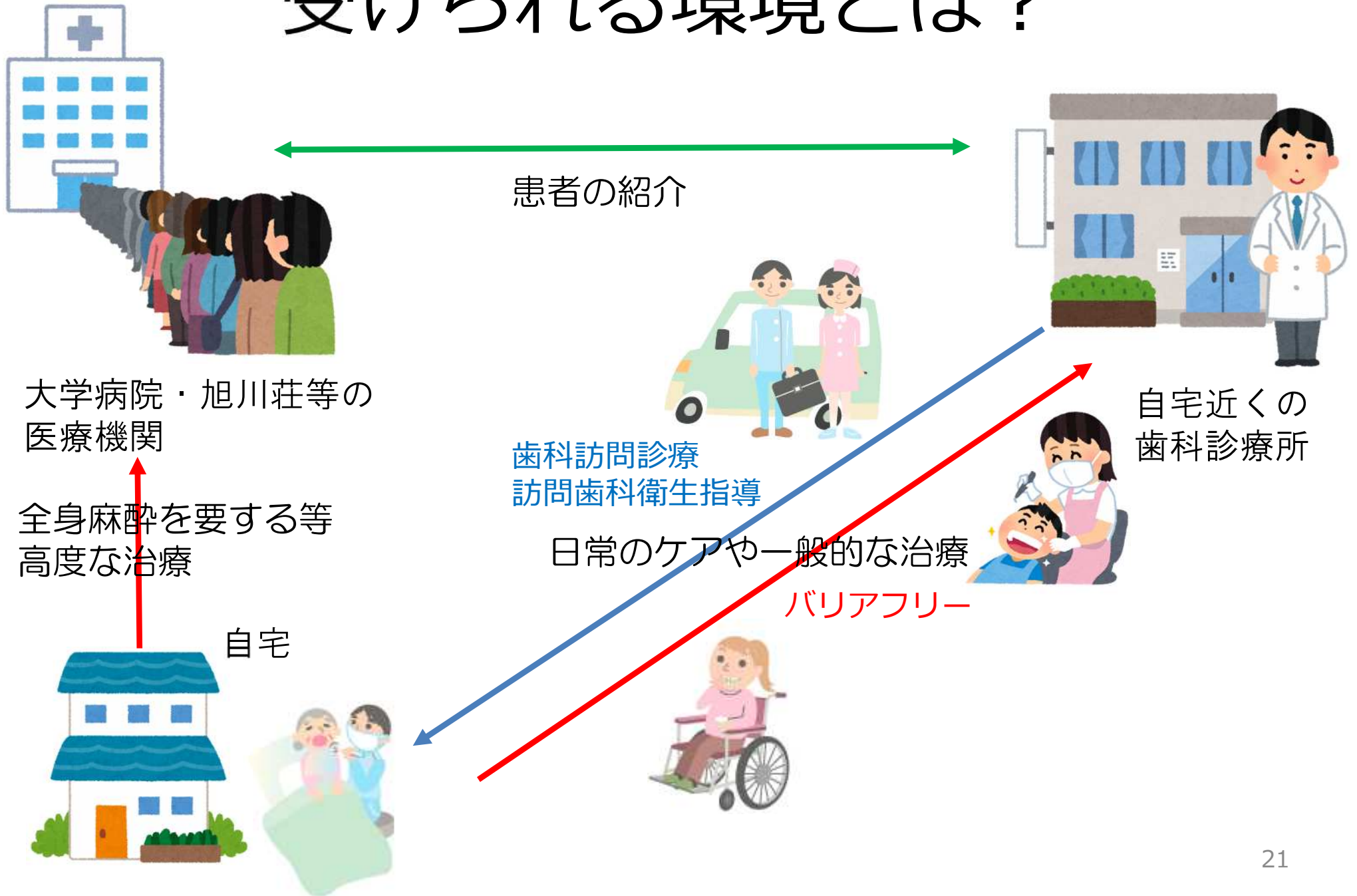
- ・ 糖尿病患者に対する歯周病治療の重要性について、内科医と連携し、歯科受診を勧奨する。
- ・ がん治療医から紹介を受けた患者に対し、適切な歯科治療・口腔ケアを行えるよう、歯科専門職に対する研修を行う。

3. 障害者（児）、要介護者が歯科治療・指導を受けられる環境の整備

障害者（児）、要介護者が歯科治療・指導を受けられる環境の整備に関する目標項目

目標項目	計画策定時 (平成23年度)	中間評価時 (平成29年度)	評価	目標 (令和4年度)
障害者(児)入所施設での定期的な歯科検診の実施率の増加	80.0%	93.3%	改善	100%
介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加	28.1%	50.0%	改善	100%
歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加	219件 (平成25年 10月現在)	215件 (平成29年 10月現在)	悪化	300件
バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	230件 (平成25年 10月現在)	218件 (平成29年 10月現在)	悪化	300件

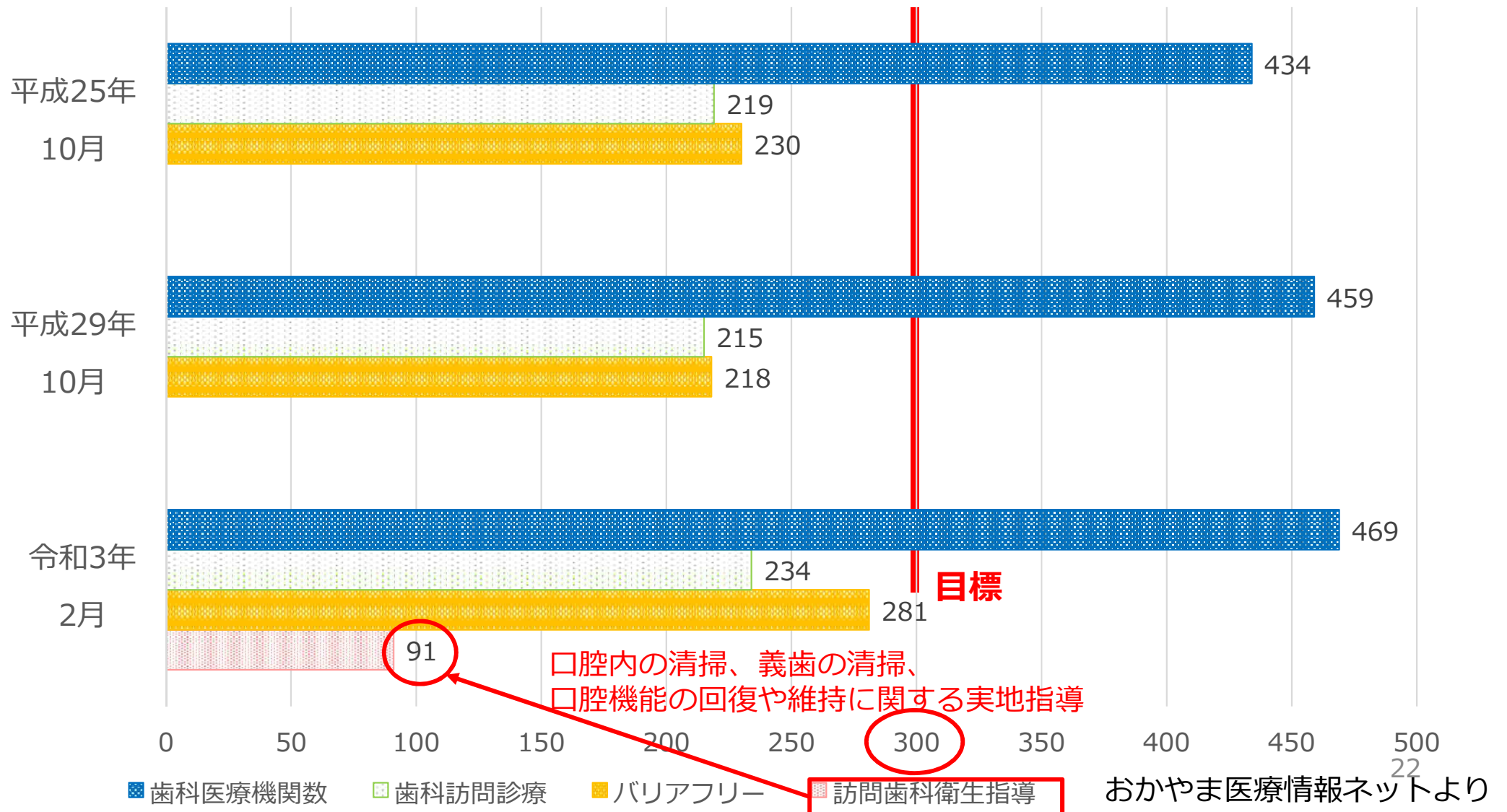
障害者（児）が歯科治療・指導を受けられる環境とは？



岡山市内で歯科訪問診療を行う歯科医療機関数および バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関数

歯科訪問診療を行う歯科医療機関は増えているが、訪問歯科衛生指導を行う歯科医療機関は91か所しかない。

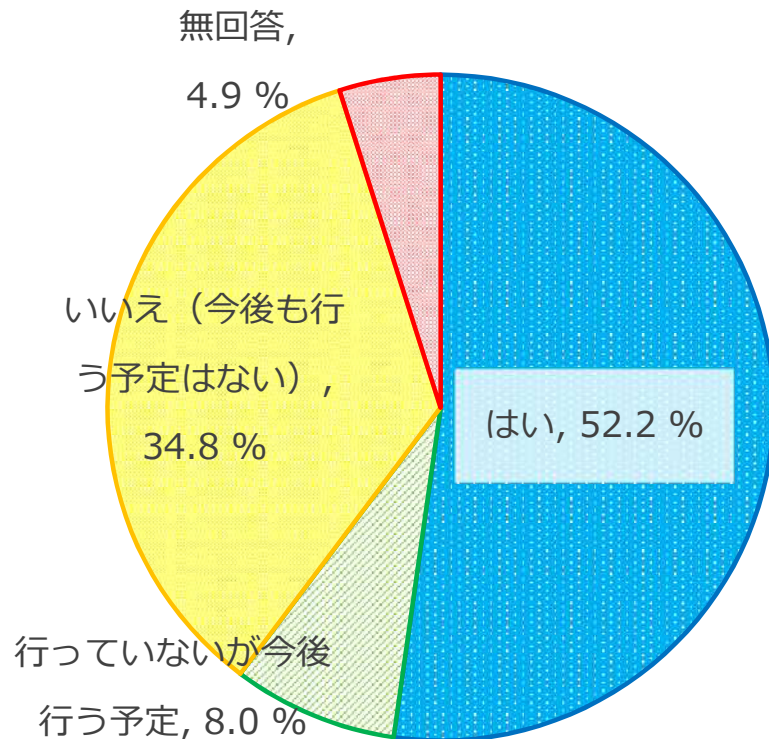
在宅で、障害者（児）、要介護者が必要な歯科治療・口腔ケアが受けられているのか？



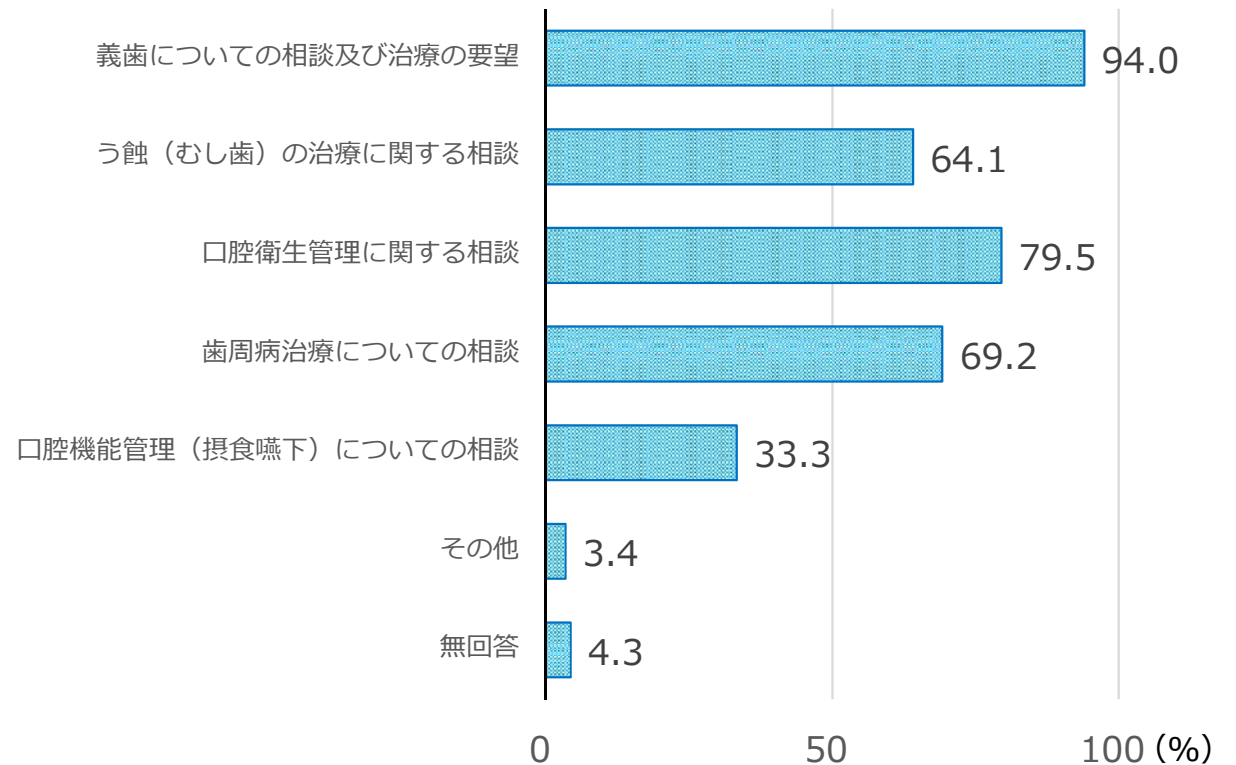
岡山市内の歯科診療所における 在宅医療の実施状況

歯科訪問診療を「実施している」と回答した人が52.2%。
実施している治療は、義歯に関するもの（94.0%）のほか、口腔衛生管理に関する相談（79.5%）となっている。

歯科訪問診療実施の有無

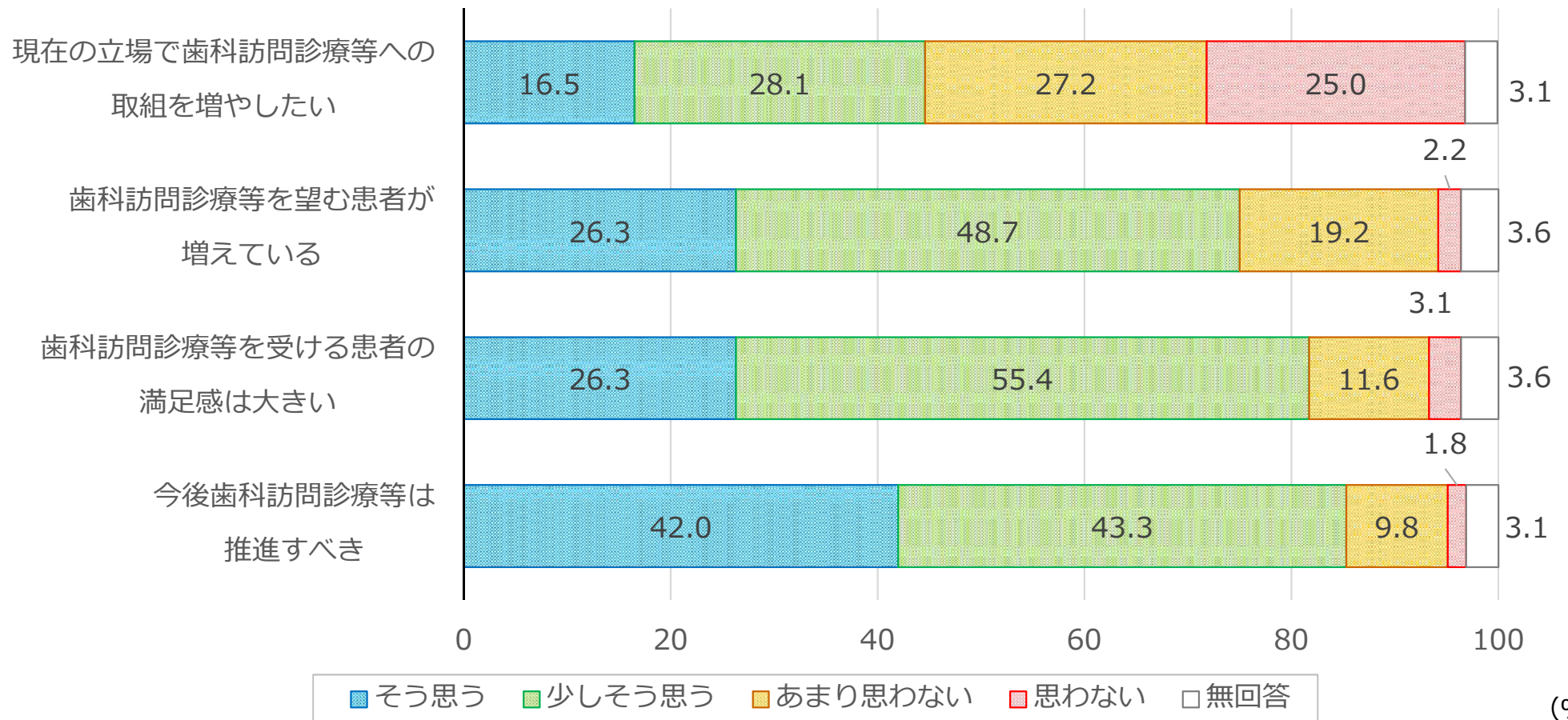


実施している治療やケア



岡山市内の歯科診療所における 在宅医療のイメージ

「在宅医療を受ける患者の満足感は大い」と回答した人は81.7%、
「今後歯科訪問診療等は推進すべき」と回答した人は85.3%いる。
一方、「現在の立場で歯科訪問診療等への取組を増やしたい」と回答した人は44.6%である。



障害者（児）に対する歯科医療技術者養成事業

障害者（児）の歯科治療が、岡山大学病院や旭川荘に集中している。



一般的な治療の治療間隔が延びてしまっている。



一般的な治療は歯科診療所で受診できるように、歯科専門職に対して研修を実施した。

年度	内容	養成事業修了者
平成27年度	実地研修	16人
平成28年度	実地研修	11人
平成29年度	実地研修	12人
平成30年度	講演会	13人
令和元年度	講演会	13人
令和2年度	講演会	20人

*現在、大学病院は改修中

今後の対策

- 普及啓発

- ＜市民向け＞

- ・研修修了者や発達障がい児協力歯科医療機関マップ（平成26年、岡山県）等の公開による受診機会の拡大
 - ・かかりつけ歯科医を持つことや定期歯科健診の重要性に関する健康教育を行う。

- ＜専門職向け＞

- ・歯科医師・歯科衛生士に対し、発達に特性のある児への対応方法等の研修を行う。

- 例) ○学習スタイルの理解

- ・言葉がけの代わりに示す（絵カード）
 - ・注目できるものの活用
 - ・時間をかける

- スモールステップですすめる

- ・部屋に入る
 - ・座位から少しずつ椅子を倒す
 - ・寝かせた椅子に転ぶ

- ワークシステムを明確にする

- ・何をどれだけ行い、どうなったら終わるかを明確にする。

- よいルーティンを作る

- ・始まる儀式、終わる儀式
 - ・数を数える